

心の通う医療と家族会の活動

（国立精神・神経医療研究センター病院家族会「むさしの会」）

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院は、精神疾患、神経・筋疾患、発達障害を専門とするナショナルセンター病院です。病院では、心や精神の病気をもつ患者さんに対して、人権を尊重した医療の提供と患者さんの心に寄り添う看護が行われています。

平成 11（1999）年、当時の国立精神・神経センター武蔵病院に家族会「むさしの会」が誕生しました。家族会では、当事者が病気を受け入れながら明るく希望を持って生活できるように、毎月、病院内外の医師や専門家を講師に招いた学習会や懇談会を開催しています。

平成 22（2010）年から、むさしの会では病院の改組・改名、新築に合わせて、患者さんの再来受付や院内ご案内のボランティア活動を開始しました。当事者や付き添いの家族のことをよく理解している家族会会員によるボランティア活動は皆さんに大変喜ばれています。

今後とも、心を病む当事者を持つ家族の拠り所として、活動の輪を広げていきます。